「女性目線の建築」

建築関係の勉強をしたいと家族に話した時、祖母の反応は「女の子が建築？」

未だに男性的なイメージが強いものだと感じた。高校でもそれは感じ、私の高校はもともと女子高から共学になった学校のせいか女子が多く、看護系や介護系に進む生徒が多いので、その方面では学校側もバックアップが強い。進路調査をしても建築志望の生徒は私ぐらいしかおらず先生に進路相談をしても「建築のことはよくわからないけど」が前置き。1年生の時には職業について話を聞く機会があり、自分の興味のある職業について実際にその職に就いている方から直接話を聞いた。その時も選択の中には看護、介護、保育と女性的なものばかりで建築などなく、自分が何を選択したかも覚えていない。大学や専門学校のパンフレットを見るとこれ見よがしに女の子の写真が載せてあるが実際はまだ少ない

20 × 20

のでは。

しかし家に暮らすのは父であり母であり息子であり娘…と老若男女合わせた家族である。

男性からの目線があれば女性からの目線も必要である。女性がもっと進出してもいいと思う職業なのに周囲の環境がよいとは言えない。

実際、高校生の時は私も女性のイメージは少なく建築の方面に進むことに迷っており、高校三年になる前に調査するコース選択に悩んでいた。そんな時に学校で大学、専門学校の見学があった。やはり看護や介護関係の大学はあったが建築の大学はなかったので、いろんな科から選べる専門学校が組まれている見学コースを選んだ。言うまでもないが建築科を選んだのは私だけである。正直一人はいやだったので友達と同じ科にしようかとも思ったが自分の進路なのだからしっかり向き合わないと、と思い見学に臨んだ。それがかえってよく、一人なので話も私のペースでじっくり聞けて質問もし放題。この時ばかりは建

築に人気がなくてよかったと思った。そこでも女性の建築業界での在り方が話題となり、色々話を聞いた。工業系の中では建築は女性が増えてきており、その専門学校でも女子学生が増えてきてセンスがあり成績の良い人が多いそうだ。それは最近聞きに行った東海学生卒業設計コンクールの公開プレゼンテーションでも感じたが、最終選考に残っていた学生は女性のほうが多かった。また、キッチン周りなど家事を行うスペースは、使う頻度から男性より女性目線で利点をきかせられ、今は自宅のパソコンからでも図面を書けるので子育てしながら仕事を続けられる。そういった面でも建築は女性的かもしれないと。学校への誘い文句でもあるとは思ったけれどその話を聞いて建築の道に進む決心がついた。専門学校の入学式で女子も意外に多く驚き、クラスに七人は少ないかなとも思ったが先生に聞くと昨年より多いらしい。工業高校出身の人が多かったけれど普通科出身の人もいて、

20 × 20

進路相談の「建築のことはよくわからない」

は全国共通なのが判明。進路相談会でも聞いたが建築は景気に影響されやすく、最近はあまり人気がない。しかし衣食住というだけに家はなくてはならないもの。建築という職業がなくなることはない。もう少し見直されて、また女性が入りやすいような環境作りを考えてもらいたい。

一年前、ずっと家を建てたいといっていた我が家に新築が完成した。何年か前から付き合いのある設計事務所にお願いした。社長はもともと宮大工で家の前で木材を電動のこぎり片手に加工している姿が格好良かった。新居にはその場所の姿が残されている。前の家の隣のスペースに建てたのだがそこにあった木を座敷の柱と天井に使ってくれた。家を見に来てくれた人が感心してくれる自慢の部屋だ。

祖父が介護状態で母が面倒を見ていたのだが、前の家では祖父の部屋はトイレから一番

遠く日当たりも良くなかったので、新居では祖父の部屋の近くに介護用トイレを配置して母の負担も軽くなったと思う。冬にとうとう危なくなり入退院を繰り返し三月、自宅で家族に見守られる中息を引き取った。父の「ちょうどこの部屋から庭の桜がきれいに見えるのに。あと一カ月間に合わなかったな。」と言った言葉が印象的だった。それでも、半年だけでも祖父にとって家族とともに新しい家で過ごせたことは幸せだったと思う。葬儀に来てくれた親戚や知人が「こんなにいい家を建ててもらえておじいちゃん幸せだったね。」と話してくれた。家族の思いを家に託してくれた設計事務所の方々に感謝の気持ちが溢れてくる。そんな風に思ってもらえる建築家になりたい。目標は電動のこぎり片手に持っているあの社長のような建築家だ。

東海工業専門学校金山校　田中美希（たなかみき）　建築工学科　一年